

総合技術研究会 2019 九州大学 参加報告

共通機器部門（情報基盤機器管理班）・技術主任 三原 修

1. はじめに(目的等)

隔年で開催されている表題の研究会が、今年度は九州大学で開催された。今回、この研究会に基調講演等の聴講、口頭発表、見学会で参加したため、以下報告する。

2. 期間・場所

期間：平成31年3月6～8日（3日間）

場所：九州大学 伊都キャンパス（福岡市西区）、

大橋キャンパス（芸術工学部；福岡市南区）

※ 2日目以降の伊都キャンパス内におけるプログラム別の会場はそれぞれ下記の通り。

- ① 安全衛生技術講演会，ならびに開会式・特別講演：椎木講堂
- ② 口頭発表：センター2号館；ポスター発表：ウエスト1号館

3. 参加者

大学・高専・共同利用研究機関等に所属する技術職員および企業関係者等

4. 研修内容

※ 研究会の詳細は <https://tech.kyushu-u.ac.jp/2019> を参照。

(1日目：大橋キャンパス)

- ・ 芸術工学部見学会：音響特殊実験棟，画像特殊実験棟，工作工場の各施設見学

(2～3日目：伊都キャンパス)

- ・ 安全衛生技術講演会の聴講
- ・ 開会式，ならびに特別講演「新元素の探索」（九州大学大学院理学研究院 兼 理化学研究所仁科加速器科学研究センター超重元素研究開発部長 森田浩介教授）の聴講
- ・ 各分科会口頭・ポスター各発表の聴講（+自身の口頭発表；情報系技術分野に参加）

5. まとめと感想

今回の研究会では2日目以降の本会が九州大学の新しいメインキャンパス(伊都キャンパス)を会場に、その完成記念の節目を兼ねて開催された。椎木講堂の他、壮大な新しい建物群が並び立つ風景に見惚れながら、研究会に参加したこの3日間を有意義に過ごせたと思う。

以下、参加した主な各プログラムについて、それぞれまとめと感想を述べる。

5.1 開会式・特別講演

開会式では、久保千春総長が挨拶された。また、特別講演では、113番元素として日本（理研）の研究グループで初めて人工合成に成功して発見したニホニウム（Nh）について、その研究代表である森田浩介先生により紹介され、実験方法と共に、発見に至るまでには相当長い年月を費やしたこと（すぐに成果が出るものではなく、これまでに研究室の多くの学生がその新しい発見に立ち会わずに卒業・修了していったこと）が分かり、また、このニホニウム命名時の経緯の紹介も含めて大変興味深く拝聴した。

5.2 安全衛生技術講演会

午後からの開会式に先立って午前中に、これまでに日本国内で発生した大きな災害（平成7年阪神・淡路大震災、平成23年東日本大震災、平成28年熊本地震）に関連して、被災機関所属の技術職員の方々（3名）による招待講演が今回の研究会で企画開催された。防災・減災の取り組みの重要性を改めて実感すると共に、自身が現在衛生管理者を務めていることもあって耐震対策については普段から気を付けてはいるがそのさらなる知見も得られた。

5.3 口頭発表・ポスター発表

自身は情報系技術分野に参加した。その口頭発表セッションの最後で「広島大学工学部改組後の第一類・第四類各 Web サイトの開設」と題して口頭発表を行い、自身の業務成果を紹介した。

5.4 技術交流会・見学会

本会（開会式等）開催前日には9つの技術交流会・見学会（要事前登録）が開催されているが、今回はその中の「芸術工学部見学会」に参加した（なお芸術工学部は、九大統合以前の旧・九州芸術工科大学であり、大橋キャンパスに立地している）。音響や画像に関する特殊な実験施設を見学・体験できる大変貴重な機会が得られた。音響特殊実験棟の実験装置では、立体的に音響空間を再現・制御できる技術を実感した（特に「音響樽」の中に入って能楽やオーケストラ等を試聴する体験ができたことは個人的にも興味深かった）。車の走行による騒音を制御する技術への応用が進められていることにも興味を持った。画像特殊実験棟の実験装置では、「ケミカル」なものから「デジタル」なものまで多岐にわたり、そこから生み出される多彩な表現技法・技術について理解を深めた。さらに、工作工房ではその施設見学と同時に学生のものづくり（造形制作を含む）を支える体制と安全管理の取り組みについて知ることができた。